



現代日本の文学

---

---

# 大岡昇平集

---

---

〈監修委員〉

伊藤 整

井上 靖

川端 康成

三島由紀夫

〈編集委員〉

足立 卷一

奥野 健男

尾崎 秀樹

北 杜 夫

(五十音順)

学習研究社

---

現代日本の文学

33

全50巻

分割払価格 39,000円

現金価格 35,500円

---

檀 一 雄

織田作之助 集

田 中 英 光

昭和45年11月1日 初版発行

昭和48年5月1日 十版発行

檀 一 雄

著 者 織田作之助

田 中 英 光

発行者 古 岡 秀 人

発行所 株式会社 学習研究社

東京都大田区上池台4-40-5

郵便番号 145 振替東京142930

電話 東京(720)1111 (大代表)

印刷 大日本印刷株式会社

中央精版印刷株式会社

製本 中央精版印刷株式会社

本文用紙 三菱製紙株式会社

表紙クロス 東洋クロス株式会社

製函 日本紙パルプ商事株式会社

---

\*この本に関するお問合せやミスなどがありましたら、  
文書は東京都大田区上池台4丁目40番5号(〒145)学研  
「ユーザー・サービス本部事務局」現代日本の文学係へ、  
電話は、東京(03)720-1111 内線352,353か、東京(03)  
727-1600へお願いします。

---

© 1970 Printed in Japan

0393-164 633-1002



雑木林はしかしそのうつろな草原の南のほうに少し残って、淡い緑が低く連っている中に樅や栲の大木が聳えるのが見える。勉は道のない草原を分けて進んだ。林中は冷たく、下草の間に白や黄の蘭科の花が咲いていた。林は意外に深くあるかなきかの細径が、斑に陽の落ちた草の間を交錯し、去年の落葉をためていた。

〔武蔵野夫人〕







上 斜面を飾る高い樺<sup>ひやう</sup>や榎<sup>かし</sup>の下を自然に蜿蜒<sup>うね</sup>る道には、ひっそりとした静けさが領していた。静寂はときどき水音によって破られた。斜面の不明の源泉から来る水は激しい音を立てて落ちかかり、道をくぐって、野川のほうへ流れ去った。道ではじめて平面に達する水の躍るような運動は生き物のようであった。（「武蔵野夫人」）

右 武蔵野の「はけ」にある農家





夕暮れの武蔵野





左 低い岸の縁を映して、水深八十尺の静かな水が緑に拡がっていた。小ぢんまりした異様な円屋根を持った取水塔が突出していた。

(「武蔵野夫人」)

下 南面したこの側は古来よく人に住まわれたところであり、暖かいその斜面に今は茶を産する。

(「武蔵野夫人」)





村山貯水池





试读结束：需要全本请在线购买！（「武藏野夫人」artongb











上 河口湖畔には富士の基底をなす熔岩の一部が露出して、荒涼たる岩塊が宿の庭を埋め、または柱状に割れて湖面に傾いていた。（「武蔵野夫人」）

右 武蔵野の恋ヶ窪（日立中央研究所の中庭）







十一月下旬レイテ島の西岸に上陸するとまもなく、私は軽い咯血かつりつをした。水ぎわの対空戦闘と奥地への困難な行軍で、ルソン島に駐屯ちゅうとん当時から不安を感じていた、以前の病気が昂こうじたのである。私は五日分の食糧を与えられ、山中に開かれていた患者収容所へ送られた。血だらけの傷兵がろくろく手当も受けずに、民家の床にごろごろしている前で、軍医はまず肺病なんかで、病院へ来る気になった私を怒鳴りつけたが、食糧を持っているのを見ると、入院を許可してくれた。(「野火」)

右上 レイテ島の主峰カンギポット山のふもと。ここで数知れぬ将兵が戦死した  
右下 レイテ島ティブール海岸  
上 カンギポットより北を望む







上 千本松原の旅館の前はすぐ海で、静かな駿河湾の水が浜の砂利をなめている。「沼津」

左 この辺一带は南禅寺の東を山沿いに北行する<sup>とすい</sup>疏水から引いた水に縦横に貫かれている。「黒髪」